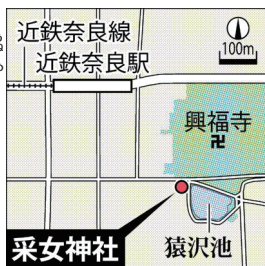




採女神社 (奈良市)



採女神社は春日大社の末社で、猿沢池の西側に、

池に背を向け立ちます。祭神は採女命です。「大和物語」によると、奈良時代に帝に仕えていた採女が、帝の寵愛が薄れたことを嘆いて猿沢池に身を投げ、それをかわいそうに思った帝が人々に歌を詠ませたとありま

(住所) 奈良市樽井町15
(祭神) 採女命
(交通) JR奈良駅下車徒歩約15分、近鉄奈良駅下車徒歩約5分

(拝観) 開扉時自由
(駐車場) なし
(電話) 0742-227788
(春日大社)

中秋の名月に「慰霊祭」

す。後に採女の霊を慰め 柳があったといわれているため、猿沢池のほとりに社がたてられました。毎年中秋の名月の日、採女の御霊を慰めるため「採女祭」が行われます。艶やかな天平衣装をまとった人々が練り歩く花扇奉納行列から始まり、その後、採女神社で春日大社の神職によって例祭に衣を掛けたと伝わるが厳かに営まれます。

やがて日が暮れると雅楽が流れる中、猿沢池に天平衣装に身を包んだ人々が乗り込んだ二隻の管絃船が浮かべられます。

クライマックスには花扇を池に投げ、採女の霊を鎮めるため、祈りをささげます。月夜に浮かぶ管絃船は幻想的で美しく、その様子を見るために、猿沢池周辺は多くの人でにぎわいます。

(奈良まほろばソムリエの会会員 横山真紀子)